

財務状況・収支見通しなど厳しくチェック 第三セクター等特別委員会 現地視察続く

第三セクター等特別委員会の現地視察が続いています。7月30日には吉川区の「みなもとの郷」と「杜氏の郷」など5カ所を視察しました。

「よしかわ杜氏の郷」では金沢専務が状況を説明。市からの1億2千万円の増資についての謝意を示した後、「増資をもとに従業員一丸となってがんばってきた。取引先の倒産などによって前期は赤字を出すなど、依然として酒業界の先行きは厳しい。しかし今期は順調に売り上げを伸ばしてきて一定の見通しが立つようになってきた」「一時風評被害で停滞した東京の生協との取引や地元区民との関係も改善し、順調に業績を回復しつつある」と報告しました。

参加した上野議員は、「これ以上の赤字



を出すことは市民に対して説明がつかない。業績改善が至上命令であり、当面の最大の仕事だ。新体制で業務改善に取り組んでいる様子がわかるので、引き続きがんばってほしい」とのべました。

次に訪れた「スカイトピア遊ランド」などを運営する「みなもとの郷」では、内藤支配人が状況を説明しました。

この法人は累積剰余金がマイナスになっていますが、財務全体としては大きな困難をかかえてはいません。最近では、自然薯をつなぎにしたそばが好評で、地元の行事での利用を中心に売り上げを順調に伸ばし、今期は剰余金を積み立てることができる見通しとのことです。また、越後田舎体験事業を通して、都会からの参加者の支持を広げ、地域の良さを知ってもらおう活動で一定の貢献をしていると自負していることや、こうした活動の中で子どもたちが施設の脇に「そば」の畑を作り、体験学習に生かしていることが報告されました。

内藤支配人は、「すたれた所には若者は戻ってこない。そうならないように、この地の緑や原風景を守りたい。」と思いを語っていました。



日本共産党上越市議員団ニュース

No. 244 2010年8月8日・15日

連絡先 橋爪 法一 548-3628 (吉川区代石)
樋口 良子 544-6802 (中門前3)
上野 公悦 530-2203 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 525-9096 (上中田)

このほど福井市で行われた「全国自治体学校」へは、視察と重なり日程がとれなかった樋口議員を除く3人が参加。それぞれが議員活動の向上目ざして学んできました。

この学校は全国の自治体労働者や議員がつどい、学者・研究者とも意見を交わしながら自らを高めようというもので、財政や医療、福祉、交通などを数多くの分科会で専門的に学びます。

このうち、「地方自治権」の概念についての具体的な言及がない、②「地域主権」の概念についての一見大きな問題がないように見えませんが、①「地域主権」の概念が不明確で、域以外の領域がすべて「地域」だとされうる可能性がある、③「地域住民」の「自己決定」と「責任」がさらに強調されている、など見逃せない問題があることが指摘されました。



このほかに、施設管理について国の関与が増える可能性や、各種制度でも国の基準以上の上乗せがきわめてしにくくなること、自治体の規模の拡大(合併)がさらにすすめる可能性があることなど、住民の生活に直接関わる問題があることが明らかにになりました。

「地域主権改革」は要注意

全国自治体学校で本質学が

医療費で破産も！ 恐ろしや アメリカの医療事情

平良木議員は、「このほど「人間と性」教育研究協議会の全国セミナーに参加しましたが、その際の記念講演で学んだ「アメリカの医療保険制度の実態」をレポートしました。以下、平良木議員の報告です。

アメリカの医療保険制度は、ご存じの通り行政は放置状態で、民間保険会社の保険でまかなわれているのが現状です。そのため、収入の低い層は保険に入ることができず、まともな医療が受けられません。

そこでオバマ政権が打ち出したのが、今後十年間で3千万人以上の無保険者を解消する医療保険改革。米史上で初めて国民のほとんどをカバーする皆保険制度を導入する内容とされていますが、その実態は、貧困層を含めて民間保険の市場に放り込むというもののようです。

その民間医療保険の実態の姿ですが、貧困層だけでなく、一定の収入のある中流層までが医療破産をしかねない状況になっているとのことです。例えば、おなかの具合が悪いのでCTをとってもらったら、幸い悪性ではなかったという例について、保険会社は「悪性ではなかった」ということはそもそも不要な診療を受けたということなので医療費は給付しない」と主張し、本人に数十万円の請求をしたとの実例があるそうです。

このような事例をもとに、心ある人は、「医療保険の民間導入はいけない」と警鐘を鳴らしているそうです。

他山の石とすべきです。